

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月 5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3671900409
法人名	医療法人 清和会
事業所名	グループホーム ふれあい三野
所在地	徳島県三好市三野町加茂野宮字東王地1551-2 (電話) 0883-76-2265

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年6月25日

## 【情報提供票より】(平成20年 5月 20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年 11月 1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	15 人	常勤 8 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 ユニット1 5.2人, ユニット2 5.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費6,000円、教養娯楽費3,000円、その他実費	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	380 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,380 円	

### (4) 利用者の概要( 5月 20日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	62 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三好市立三野病院
---------	----------

徳島県 グループホームふれあい三野 1

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は民家から少し離れた緑豊かな農耕地の中腹にあり、明るく見晴らしの良い所に位置している。玄関はいつも開放されており、庭には利用者と家族が共に作る菜園がある。散歩など戸外での支援が広々とした環境の中で行われており、ゆったりと家庭的な環境の中で生活している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での課題についてはすべて改善されている。「地域密着型サービスとしての理念の作成」について全職員で話し合い、独自の理念を作成して分かりやすい場所に掲示し、周知されている。「家族による金銭管理の記録の確認」については、2ヶ月毎に通帳のコピーと領収書などを郵送で報告し、返信用ハガキで全ての家族に確認印をもらっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>理事者、管理者、職員は評価の意義を理解して自己評価に取り組み、問題点など話し合いサービスの質の向上につなげている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>奇数月(年6回)に開催され、利用者、家族、地域包括支援センター職員、民生委員、運営者、管理者などが出席している。入居者全員の家族には毎回、全世帯に参加の呼びかけを行っている。討議内容は活動状況や行事、評価結果の報告等を行い、自治会への加入や地震対策などについて討議されている。また参加者と利用者全員での会食交流も実施し、グループホームに対する理解と情報交換が図られている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>2ヶ月毎に発行するホーム便りに加えて、職員が担当する利用者一人ひとりの健康状態や日頃の状況等を手紙に書き、写真を添えて報告している。利用者の状況に合わせ随時の報告も行われている。家族会を開催して家族同士で話し合える場をつくり、意見等を出してもらっている。また外部の相談窓口を掲示するなど家族が意見を言いやすく環境を整えている。日頃の会話の中で出た些細な内容も見落とさずミーティングで話し合い対応し、結果はホーム便りで報告している。家族からの提案によって菜園作りや周辺の草取りなどが行われている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のお祭りや盆踊り、ゴミ拾い、学校の行事に参加したり、図書館の利用や買い物、ドライブなどで地域に出かけている。また職員が地域の活動行事にボランティアとして参加するなど地域との関わりを大切にしている。グループホームの祭りなどの行事には地域の方が参加したり、利用者の知り合いが来訪するなど双方向的な交流が図られている。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を確認して理解し、管理者・全職員で話し合い事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の具体的なケアへの反映について話し合うなど、理念の理解と実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや盆踊り、ゴミ拾い、学校の行事に参加したり、図書館の利用や買い物、ドライブなどで地域に出かけている。また職員が地域の活動行事にボランティアとして参加するなど地域との関わりを大切にしている。グループホームの祭りなどの行事には地域の方が参加したり、利用者の知合いが来訪するなど双方向的な交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理事者、管理者、職員は評価の意義を理解して自己評価に取り組み、問題点など話し合いサービスの質の向上につなげている。また外部評価の結果を周知し、全職員で改善点について検討を重ね具体的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月(年6回)に開催され、利用者、家族、地域包括支援センター職員、民生委員、運営者、管理者などが出席している。入居者全員の家族には毎回、全世帯に参加の呼びかけを行っている。討議内容は活動状況や行事、評価結果の報告等を行い、自治会への加入や地震対策などについて討議されている。また参加者と利用者全員での会食交流も実施し、グループホームに対する理解と情報交換が図られている。記録は残されているが、全職員が回覧したことが分かるサイン等がない。	○	全職員が会議内容を確認し共通認識を持てるように、回覧しサインするなどの仕組みづくりが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の行事に参加してもらったり、利用者の状況把握や情報交換のために来訪してもらうなど密な連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月毎に発行するホーム便りに加えて、職員が担当する利用者一人ひとりの健康状態や日頃の状況等を手紙に書き、写真を添えて報告している。利用者の状況に合わせて随時の報告も行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催して家族同士で話し合える場をつくり、意見等を出してもらっている。また外部の相談窓口を掲示するなど家族が意見を言いやすいよう環境を整えている。日頃の会話の中で出た些細な内容も全てミーティングで話し合い運営に反映し、対応方法をホーム便りで報告している。家族からの要望によって菜園作りや周辺の草取りなどが行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を大切にしてユニットの職員は固定化している。やむを得ず異動や離職がある場合は利用者の状況や全体への影響を重視し、時期や引継ぎ期間を考慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内勉強会を計画的に毎週実施している。個人的な研修希望に対しても内容や必要性などを吟味し、受講を支援している。同法人の他のグループホームとの交流研修も行い、それぞれの取り組みなどを話し合っている。研修内容はすべて報告を行い、全職員が共有できるシステムがあり実施されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会徳島県支部に加入しており、研修会に参加し情報を得たり交流をしている。県内・外のグループホームの見学なども行い、取り組みに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の前に家族の理解を得て自宅を訪問して利用者と話をしたり、ホームに遊びに招くなどしている。入居者に知り合いがいる時は馴染みの関係を支援するなど、家族にも協力を求め、利用者にゆっくり付き合いつながりながら利用につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者とは皆家族だと思い、できることは一緒にしたり、教えてもらう場面づくりなどして、共に支えあう関係を大切に支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に時間をかけてじっくり話を聞き、自己決定の機会を作り、意向を把握する努力をしている。気持ちの表現ができていない人には、そばで寄り添う中で表情や反応からニーズを把握する努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画には家族の意見を聞き、本人や必要な関係者と話し合い作成されている。現場での意見や日々の変化や気づきをメモや申し送りノートに記入して参考にするなど、関係する人の意見を反映した計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを実施している。職員の気づきや個人記録の状況確認など、本人の実状に合わせた随時の見直しも行われ家族も確認している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族のその時の状況に応じて、通院や送迎など柔軟に対応している。協力病院の看護師による週1回の訪問看護により、健康管理と早期の対応や適切な指導により安心と柔軟な支援ができています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人や家族が希望するかかりつけ医の医療が受けられるよう家族と協力をしながら、必要に応じて通院の介助など行い、事業所の協力医と連携を持ち複数の医療機関とのつながりを大切に支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時など早い時点で、重度化や終末期について家族や本人に話をしている。事業所として本人や家族の意向にそう方針を全職員で共有ができています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護、秘密保持の厳守などのマニュアルがあり、研修も重ねている。文書化したものを掲示して日頃の利用者への対応や言葉かけ、記録などにも徹底を図り取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日の流れは決められているが、一人ひとりの思いやペースを大切に支援している。時には利用者一人ひとりの生活歴などを参考にして、できそうなことをさぐりそれとなく提示し、その人らしさが発揮できる場面をつくるなどして、ゆっくりとにこやかに生活ができるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で作った野菜を活用し、準備を手伝う人、配膳を手伝う人、盛り付けをする人、できあがりを楽しみに待つ人など職員と一緒に和やかに食事されている。自分の使った食器は各自で片付け、周辺の掃除も職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する時間に入浴の支援ができています。中には入浴を嫌がる人もあり、時間を置いて声をかけたり、気の合う人と一緒に入っただけなど楽しめる工夫をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族の話などから一人ひとりの好みや生活歴を把握し、日々の暮らし「野菜作り、草取り、買い物、塗り絵、お習字、ドライブ」を実施している。さらに利用者個別の誕生会、年2回の家族遠足、家族会など日々の暮らしに楽しみと喜びが感じられる工夫がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日のゴミだし、庭での花や野菜の見回り、周辺の散歩など歩行に不安のある人や車椅子の人も、その人のペースに合わせ職員と一緒に日常的な外出の支援がなされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	両玄関とも自由に開閉できる状態であり、利用者の外出は見守りを主とし、さりげなく声かけをしたり、一緒について行くなど安全に配慮し自由な暮らしの支援ができています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防への通報設備も整備され、年2回避難訓練を実施し、夜間を想定しての訓練も実施されていた。車椅子、介助を要する人の部屋にはシールを張り一目で分かる工夫もしている。地域への協力は行事や運営推進会議などで呼びかけ、地域の消防団にも協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士から助言を受け栄養のバランス、摂取量、食事の形態など一人ひとりにあわせた食事の支援をしている。水分や食事の摂取量を毎日記録に取り把握して、医師や訪問看護師など専門家の指導も受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	腰掛ける高さに畳の部屋があり、フロアにはソファが数箇所に入れられ、利用者はゆっくりとくつろいでいる。居間の一角には本や新聞、アルバムなどが置かれ、壁には共同で作った作品や思い出の品々があり、季節の花など家庭的な居心地のよい空間がつけられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはその人の生活をしのばせる思い出の置物や家具が置かれ、家族の写真や日常の必需品などもあり、利用者がゆっくりと落ち着いて過ごせる部屋となっている。		